

Kumamoto University Library Bulletin, No.19, Feb. 1998

● 図書館と私

熊本大学附属図書館架蔵 特殊文庫の紹介(≡)

● 米田家文書について

● 総合目録データベース実務研修会に参加して

● 平成9年度日本薬学図書館協議会 研究集会当番館を担当して



米田家文書(H. 8 大型コレクション)の一部 米家旧記抄(96冊)など

図書館と私

江口吾朗

図書館を訪ねればその大学の内容と質を推し計ることが出来ると言われるほど、大学図書館の存在意義と役割は大きい。同様に、地域にあっても洋の東西を問わず、文化度の高い所の図書館は一般に優れている。

木材加工業を営む家の五男坊であった私は、けたましい騒音を発する工場に隣接した住家で育てられたこともあって、騒々しさに対する抵抗性がよほど培われたらしく、現在なおラジオやテレビの近くで論文書きや読書ができるのである。また、6人の子供が凡て男児であり、両親の教育方針もなかなか良く、辞典や各種の統計書をはじめ、一般家庭には異常なほど多種多様な書物が整えられていた。その勢で、私は大学に進むまでは殆んど図書館に出入りすることがなく、学友から図書館行きを誘われても、「あのような静かな場所では着いて勉強できぬ」と断るのが常であった。加えて、名古屋大学には久しく中央図書館が設置されず、図書は各学部の図書室に夫々整備されていたので、大学の中央図書館の在り方に意を向けることも殆んど無かった。大学図書館について関心を抱くようになったのは、恥づかしいことに、本学に学長職を与えられたのがきっかけであると言ってよい位のものである。

一言にして言えば、本学の図書館は大学の規模と内容からみて狭隘であり設備も不十分である。早急に拡充改善を図らねばならない。それでも、様々な制約の下で辛うじて大学図書館としての機能が発揮されている。図書館長金原先生はじめ図書委員諸先生および図書館職員皆さんの不断のご努力の賜物と深く敬服すると共に、学長として日々責任を痛感している次第である。

話は変わるが、過日図書館職員の交流会で『酒と図書館』をテーマに語るよう依頼を受けた。図書館と酒とを結びつけることなどまるで三題ばなしの類であるが、なんとなく面白くお引き受けしたのであった。とは言え、簡単に片付けられるわけもなく、いくらかの準備も必要で図書館に通うこととなった。

スコットランド遊学時代にウイスキーについてもかなり勉強したので、ウイスキー造りに関する知識を再認識しておきたかった。手っ取り早く百科辞典を手にしたが、百科事典はさすがに学生諸君にもよく活用さ

れているらしく、かなり痛んでいた。世界大百科事典（平凡社1972年初版1979年二刷）のウイスキーの項を開くと、私がスコットランドで仕入れた知識とは異なる記述がなされていた。そこで、大百科事典（平凡社1985年）を調べてみたところ、一致が得られなかった。仕方なく、『酒と図書館』の放談では、私自身の記憶を基にお話しすることにしたのであった。

同一出版社の百科事典でありながら記述が異なるとは奇妙な話である。自然科学では領域によって古い知見が新しく修正されることは起っても不思議ではないが、ウイスキー造りの歴史が10年そこそこで書き換えられるとはどう考えても不自然であり、どちらかが誤っている、あるいは両方ともまちがっていると思えなかったのである。また、残念なことに日本の出版社の厳密性の欠除に疑念が生じ、百科事典を活用する場合でも、事項ごとにより専門的な書物による再確認の必要性を痛感させられたわけである。図書館員の依頼が私にとって新しい勉強になったのだった。

ところで、学生諸君の自主的学習の場として、大学図書館は大きな役割を担っている。最近、大学設置審議会の一委員として、学部の新設を申請中のある医科大学に実地調査に向いた。このような場合、図書館または図書室は常に調査の対象となっているのだが、この大学の図書館を視察する過程で、次のようなことに思い至ったのであった。

図書館長さんが、「本学では医科大学の特色を十分考え、最新の優良原書の訳書を多数整え大学生が不自由なく活用できるよう配慮しています。」と書架を誇らしげに指し示された。“細胞の分子生物学”という大部な訳書が10部ほど書架に並べられていた。このこと自体は確かに評価に値する。しかし、原書が一部添えられていたら一層効果的ではあるまいかと思いついたのであった。

細胞の分子生物学はBruce Alberts（カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部教授）ほか五名の世界的研究者の手になる1,100頁を超える“Molecular Biology of the Cell”の訳書である。この書物は近代生物学の名著の一点で、およそ生物・医学研究者、医師、生物科学系教員を志す若者達にとっては必読の

書とも言うべき良書である。仮に、何部かの訳書と共に一部でも原書が添えられていたら何が起ころうか。数多い学生の中には必ず原書をも手にし、見開いて呉れる学生が居るに相違あるまい。そのような学生のいくらかは、原書の英文での記述がどう翻訳されているかを知ろうとするのではあるまいか。学生の好奇心の度合や能力次第によって、英語と日本語の本質的な差異、英語による表現法、英文論文の書き方等々、限りない自己学習のきっかけを与えるに相違ないと思ったのであった。それで私は、図書館長さんに「原書の一部添えておかれたら如何でしょうか」と提案したのであった。本学の図書館で、このような配慮がなされているかどうか、私は未だ知らない。しかし、私のこのような提案が少なくとも試行の価値有りとお認めいただけるのであれば、是非実行していただきたく思うのである。

最後に、この機会に是非付言しておきたいことがある。昨年10月に、第五高等学校創立110周年記念式典が武夫原で盛大に挙行されたこと、記憶に新しい。本学は、その折に東京五高会から“龍南健児の像”なる立派なブロンズ像の寄贈を受けたが、図書館についても人知れず感激的とも言えるひとつの出来事があった。第五高等学校卒業生のお一人、田中千束氏がその主人公である。

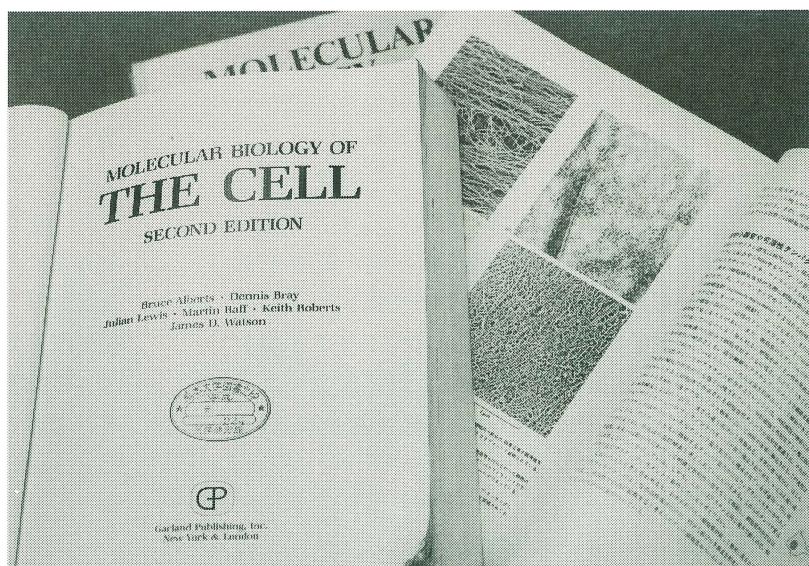
田中氏は現在伊豆にて悠々自適の生活を送って居られるが、五高卒業後東大法学部に進まれ船舶海運関係の仕事に従事された方である。10年前、やはり武夫原にて五高創立100周年記念式典が催された折に、かつての学び舎に何かを遺したいと、10年計画で3,000部の原書を熊本大学図書館に寄贈することを思い立たれたのであった。

このことを元本学学長松角先生からお手紙によって知らされたのであったが、田中氏が110周年記念式典の折に図書館を訪問したいとのことであった。松角先生からご連絡を受けるまで、不覚にも私はこの事実を全く知らず、早速図書館に向向き、田中氏寄贈の図書がどのようなものか、またいかに活用されているかを確認することとした。寄贈図書は田中千束氏寄贈図書としてよく整理され、自由に活用できるように開架されていた。書架を前にして、私は異常な驚きと深い感謝の念を覚えたのであった。実に立派な原書の群で、

進化論などの自然科学書も含まれる広範囲な領域の近刊原書が数多く、田中氏の誠意と思いの深さがひしひしと感じられる寄贈図書だったのである。

110周年記念式典当日、金原図書館長共々田中千束氏ご夫妻を図書館にご案内し、深く感謝申し上げたのだが、『日々新しい原書の発掘に心掛け、大学図書として役立つと思うものを購入し、なんとか3,000冊の目標を達成できそうです』と語っておられた。田中千束氏寄贈の図書がより多くの方々に活用されることを望んで止まないものである。

(えぐち ごろう 学長)



熊本大学附属図書館架蔵 特殊文庫の紹介(三) 米田家文書について

松本 寿三郎

本館に架蔵する米田家文書は、熊本藩の第二家老であった米田家に伝来した古文書の一部である。米田家は初代求政から細川家に仕え、松井・有吉家とともに代々家老を勤めたいわゆる世襲三家老のひとつである。小倉時代一時浪人になったが、元和九年帰参して家老となり熊本では1万5000石を給された。熊本城内二の丸に上屋敷、坪井に下屋敷（現熊本市立高校敷地）があった。旧藩時代には米田家は家臣約300人を召し抱え、知行地として合志・阿蘇南郷を中心に34村を拝領、185町を開発している。

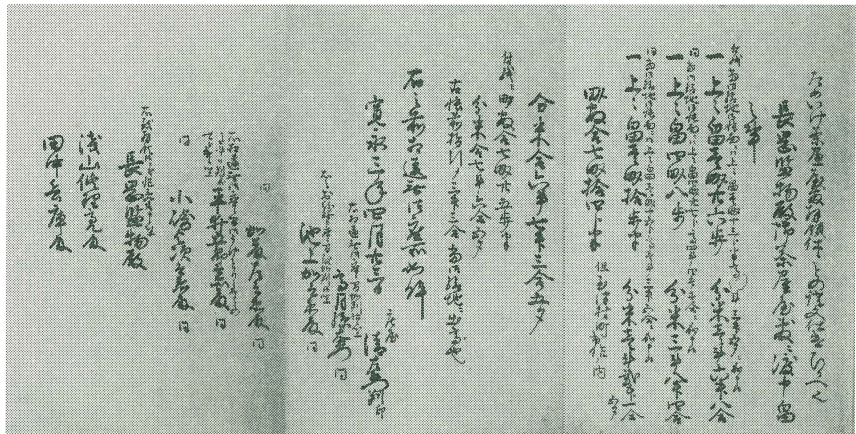
米田家は明治初年に米田虎雄が侍従となって東京に移った。おそらく米田家には一族の関係史料のほか、上記の家臣・知行地・開発関係の史料が残されていたにちがいないが、戦後の熊本県史編纂のさいにも米田家文書は分家に伝承されたと思われるごく一部が収録されているのみで、米田本家の文書は残念ながら散逸してしまったようである。

ここに紹介する米田家文書は、平成8年度文部省の人文系特別図書購入費の交付を受けて大型コレクションとして購入したものである。実は本学では平成7年度にも大型コレクション購入費の交付を受けており、二年連続での交付は難しいと思われたのであったが、本学附属図書館には熊本藩藩政史料たる永青文庫細川家文書を架蔵（寄託）しており、さらに第一家老松井家文書を所蔵していること、これに第二家老米田家文書が加われば藩政史研究はさらに充実したものになるであろうこと、実際にこのたび購入した米田家文書は細川家文書・松井家文書の空白部分を補うものであることを訴えて史学科の了解を得、文学部でも第一位にあげて予算の申請をしたのであったが、本部事務局・附属図書館長をはじめ、学内各方面からの支持によって購入費892万円の交付を受けたものである。

米田家文書は大まかには、1) 米家旧記抄、2) 米田家関係記録、3) 幕末国防建議書、4) 書簡に大別

できる。

1) 米家旧記抄96冊、米田家記録など19冊、寛永元年間から延宝七年にいたる米田家の記録である。文書を中心に編纂したものである。松井家文書の解説でも述べたが、この時期の記録は永青文庫にはあまり豊富ではない、松井家文書ではこの時期のものは、「松井文庫」に残されているが、いまだ公開されていない、というわけで、細川家ないし小倉・熊本藩の成立にかかわる肝心な時期であるのに、史料的には希薄な



米家旧記抄のうち寛永三年拝領のためいけ茶屋敷明細（小倉時代）

時代である。抄出ながらこの時期の文書は貴重である。

2) 米田家関係記録 11冊 米田家については家系・系譜・先祖付の類いは永青文庫にもあるが、前述のように関係史料に乏しいのが難点である。この中には有吉家の先祖以来覚書も含まれており、ほかに第三家老有吉家の文書が乏しいだけに、空白を埋めるものといえる。

3) 幕末国防建議書24冊、幕末米田是容（これかた）は嘉永6年（1853）黒船来航に際して浦賀警備の熊本藩総帥として出陣した。このときに家臣等が提出した国防に対する建議書の類である。

4) 書簡 480通 主として文化・文政・天保期之書簡である。この中にも海防・相州警備や大船建造に関する書簡もあるが、車えびや菓子のお礼などもあり、種々の内容を含んでいる。

（まつもと すみお 文学部教授 国史学）

総合目録データベース実務研修会に参加して

伊波ひとみ

学術情報センター主催による“平成9年度第1回総合目録データベース実務研修会”が、10月6日から24日までの3週間にわたり実施されました。この研修会は毎年2回開催されており、第1回目にあたる今回の研修会には、全国の大学図書館から12名の参加がありました。

総合目録データベースとは、全国約560大学等でオンライン共同分担目録方式により作成された図書・学術雑誌の目録データベースのことで、昭和59年のサービス開始以来、収録件数は図書書誌情報が約347万件、所蔵情報は約3,002万件（11月21日現在）にのぼりました。このデータベースは各参加館での目録作成や検索に利用されるだけでなく、文献複写や現物貸借などの依頼・受付業務をオンライン上で行うILL（Inter-Library Loan：図書館間相互貸借）システムにも利用されています。また、平成9年4月からこの総合目録データベースをWWWで自由に検索できるサービス（Webcat）も試行されていますので、興味のある方は、URL = <http://webcat.nacsis.ac.jp> で試されてみてはいかがでしょうか。

今回の研修の目的は、「目録所在情報サービスの参加館において目録担当者の指導、書誌調整などを行う中核となる職員の養成」にあり、その内容は、(1) 講義、(2) 演習、(3) 関連施設見学、(4) 個人レポート作成の4つの柱からなっており、盛りだくさんの内容で充実したものでした。

(1) 講義では、学術情報センターの教職員の方々が講師となられ、目録システムやILLシステムに関する事、目録情報の基準に関する事等の講義があり、日常の業務で何気なく利用している総合目録データベースの内幕を垣間見、知識を深めることができました。

(2) 演習では、データベースの品質管理をテーマに、重複書誌の発生原因の分析等を行い、さらに、学術情報センターの職員の方々も交えて共同討論を行いました。参加館の増大に伴い品質管理も難しくなっているようですが、正確で質の高いデータベースを維持していくためには、目録担当者一人一人の知識と意識の向上が必要であり、その指導的立場にならなければならない今回の研修に参加した私（達）の責任の重さを痛

感じました。

(3) 関連施設見学では、国立国会図書館、図書館流通センター（TRC—学術情報センターから歩いて1分！）へ行きました。国立国会図書館では“JAPAN/MARC”、TRCでは“TRC MARC”というそれぞれ独自のMARC（機械可読目録）を作成しており、その作成現場を実際に見学し、色々なお話を伺うことができました。その他、同研修に参加された方の案内で東京工業大学附属図書館も見学させていただきました。こちらでは、本学でも導入している電子ジャーナルやインターネットを利用した文献伝送システム（Ariel）の説明を受けることが出来、大変参考になりました。

(4) 個人レポートでは、現在担当している週及入力をテーマに選び、「カード目録による週及入力の試み」と題して本学の週及入力事業の状況をレポートにまとめました。日常業務に追われてできなかったことをするよい機会だったのですが、3週間という限られた期間内で満足のいくレポートに仕上げられなかったことがとても残念でした。他研修生の方々の個人レポートでは、電子ジャーナルに関する事、新目録所在情報サービスに関する事、とう案（中国の文書類）の整理方法、小規模図書室での目録登録業務の問題点等々、様々なテーマが取り上げられ、大学図書館が直面している課題の多様さに改めて気付かされました。

長いようで短かった3週間の研修期間中、様々なことを見聞きし、いろんな方々と出会い、多くのことを学ぶことができ、大変有意義であったと思います。また、全国各地に多くの友人を得られたことも大きな喜びの一つとなりました。

最後に、このような研修の機会を与えて下さった職場の方々、また、研修期間を通して終始お世話になりました学術情報センターの皆様、そして刺激と励ましを与えて下さった研修生11名の皆様に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

（いは ひとみ 情報管理課 電子情報係）

平成9年度日本薬学図書館協議会 研究集会当番館を担当して

梅尾 勝 征

期 日：平成9年10月23日(木)～25日(土)

会 場：メルパルク熊本

当番館：熊本大学附属図書館薬学部分館

参加者：66名（役員2名、大学図書館31名(23館)、企業図書館33名(27館)、
見学参加者39名(31館)）

1. 開催の経緯

平成7年11月九州地区会議において、平成9年度の研究集会開催は九州地区のローテーションにより福岡地区（平成3年開催）を除いて、今回は長崎大学、久光製薬、熊本大学の南地区3館の協議により、何れかが引き受けてほしいとの打診があり、3館で再度南地区会議を開催し協議した結果、熊本大学が当番館を引き受ける事になった。平成8年4月薬学部分館に異動し、事務を引き継いだのがこの研究集会当番館担当がメインでもあった。異動したばかりでもあり、また薬学部分館が初めてでもあったし、研究会等の全国会議開催の当番は今までに開催を引き受けたことがなく、どのような形式で開催されているか、早速その年の当番館武庫川女子大学での研究集会に出席しそこで改めて当番館にとって開催期間中は、大変な事だとつくづく思い知らされました。平成9年度研究集会開催は、平成8年度日本薬学図書館協議会九州地区会議で承認され、直ちに九州地区薬協加盟館の支援体制のため地区実行委員会を発足し、研究集会開催を実施するに当たって全面的に協力を惜しまないとの心強いご支援をいただき開催に向けて動くことになった。

2. 開催の準備

2.1. 日程

研究集会の日程については、過去数年来10月下旬開催されているので、それを踏まえて平成8年11月15日九州地区協議会会議において、開催日を平成9年10月23日(木)～25日(土)の3日間を提案し、協議の結果決定された。

2.2. 会場

例年開催された会場を調査したところ、各館とも学内施設ではなくホテル会場が使用されていたので、一応市内の各ホテルの会場を下見をかねて調査する。メ

ルパルク熊本を選定したのは、第一に公共の施設であり他ホテル会場より料金が安く又交通の便がよく、若干宿泊施設もあり初めての方にも解りやすい場所でもあったので、メルパルクに決定しました。

2.3. 宿泊

宿泊の手配については、メルパルクが宿泊施設が少なかったため、関係者（役員、講師）ぐらゐの数しか予約できなかった。その他の参加者の方々については、参加者が各自で手配してもらう方式を取ったので、会場に近いホテル・旅館ガイドを作成して情報を提供しておいた。

3. 研究集会の内容

平成8年度のメインテーマは、「マルチメディアへの対応」。”では9年度は！”このメインテーマさえ決定すれば、グループ討議・講演・事例発表の内容についてまとめるのですが、平成8年11月九州地区連絡委員第一薬科大学山口芳子氏より二宮教育担当理事と相談していただいた。二宮理事から『学内・企業LANと図書館』ではどうかと、アドバイスを受け、そのテーマを以て加盟館の方々の情報を得ながら検討し最終的には九州地区実行委員会で決定した。近年の研究集会はメインとしてコンピュータ、マルチメディアと時流のものをテーマにしているので、学内LAN施設後の図書館の役割についてが、今後の話題になるだろう。

第1日目は、グループ討議、特別講演だけにし、グループ討議については特に時間を多く取ることにした。テーマについては平成6年から8年までの過去3年分のテーマを参考資料として添付し、速めに公募し意見を求めた。特別講演については、当番館が引き受けることにした。第2日目は、基調講演1題、事例発表を4題とし大学2題（国立1、私立1）、企業2題を予定しバランス的にも配慮する。事例発表の公募につい



ては、平成9年1月事前に全国地区連絡委員へ事例研究者の発表者推薦を依頼したところ、地区委員方々からのご協力とご支援により推薦していただきました。

3.1. グループ討議

グループ討議のテーマを決めるにあたっては、早速過去3年間のテーマを添付し各加盟館のアンケート公募により提案を求め参考にした。公募の結果雑誌購入関連を除き大半がメインテーマに関連のあるテーマであり、その内希望者の多い上位5テーマを絞って平成9年度の研究集会テーマとする。

1. 図書館としてのLAN活用法について
2. LANと図書館からの情報発信について
3. 電子メールの利用について
4. 電算化と図書館について
5. 学術雑誌の購入・管理について

テーマの内希望が多かったのは、(1)、(2)、(4)、(5)で特に(1)、(4)については、メインテーマに沿ってのテーマでもあり、希望者が多く2班に分ける。また、(5)についても2班に分け、特に97年度の外国雑誌の値上りの問題で、各館とも日常業務の中で関心のある共通テーマと思われた。

3.2. 特別講演

当初から特別講演は原野分館長にお願いする予定でした。分館長はとりわけ熊本大学総合情報処理センター運営委員、ネットワークシステム運営委員などの委員でもあり、また情報教育全般についても担当されており、平成9年度の研究集会メインテーマ「学内・企業LANと図書館」は最も適任かと思いました。講演のテーマについては、すべて分館長にお任せし、「薬学領域の情報化への問題点—熊大薬学部取り組み」という演題でお話しされました。

当日はスライド及びマルチメディア機器を使っの講演で、情報を発信する側の図書館人としての刺激の

ある講演で好評でした。

(原野分館長の薬品製造工学研究室のホームページでは、平成9年度薬学図書館協議会講演要旨及び薬学図書館協議会特別講演スライドが載せてありますのでご覧ください)

3.3. 基調講演

講演の演題者については、昨年のアンケート“今後聞きたい講演”を考慮し、その中では「電子図書館」「インターネット」などの希望が最も多く取り上げられていた。そこで、平成8年4月学術情報センターから、本学附属図書館電子情報係長としてご活躍されておられることと、また、図書館の電子図書館的強化担当者として従事されて、電算のことについては経験豊かな方ですし、最適任者だったので早速甲斐係長にお願いしました。演題は「LAN上に浮かぶ電子図書館」という演題で、今話題の代名詞でもある“電子図書館”についての講演でもあり、短い時間内での講演でしたが大変興味深く、これから“電子図書館”として取り組まれる図書館にとって参考になる講演でした。

4. 最後に

平成8年4月日本薬学図書館協議会地区協議会に参加しやがて2年目が終えようとしております。薬学部分館がこの研究集会当番館を引き受けた時、全くの手探り状態で準備し計画し開催しましたが、期間中事故もなく無事修了することができました。この間、薬学部及び附属図書館の職員の方々また、日本薬協の遠藤会長、二宮教育理事をはじめとして、事務局そして前開催館武庫川女子大学薬学部分館の御協力に心から感謝致します。また、開催期間中も参加された九州地区薬協協会実行委員の方々のご協力により、無事終了できたことに対して、改めて当館職員一同お礼申し上げます。(情報サービス課 薬学情報サービス係)

図書館利用証が変わります!!

平成10年1月より、大部分の学生に対して新しく磁気カード化された学生証が交付されることになりました。新しい学生証は、各種証明書等の自動発行や履修登録等に使用されると共に、図書館においても貸出の際の利用証として利用できます。これまでは、図書館で図書の貸出を利用するためには、わざわざ登録票に記入して利用証の交付を受ける必要がありましたが、今後はその手間は不要となります。また、学生証と図書館利用証を別々に携帯する必要がなくなり、学生の皆さんにとっては少しは便利になったのではないのでしょうか。ただし、一部の学生（本年3月卒業予定者、研究生、科目等履修生、聴講生等）については、磁気カードの学生証は交付されませんので、これまで通り図書館で交付された利用証を使って頂くこととなります。

教職員に対しても、新しく磁気カード化された身分証が発行されることになり、学生証同様に図書館利用証として使用できることになりました。新しい身分証については交付の申請をして頂かなくてはなりませんので、各部局の人事担当係に申請をお願いいたします。ただし、現在使用されている図書館利用証は1999（平成11）年3月31日までは使用できますので、それまでの間に暫時切り替えをお願いいたします。新規に図書館を利用される方につきましては、是非とも身分証の交付の申請をお願いいたします。

この新しい学生証・身分証に対応するために、図書館システムについても若干の手直しが必要となりますので、平成10年2月1日より使用可能となる予定です。

（情報サービス課 資料サービス係）

遡及入力中間報告

附属図書館では学内での予算措置を受け、平成7年度より遡及入力事業を進めてきましたが、平成9年11月に和図書（第1期）の遡及入力が終了しました。

入力については、中央館で保管している研究室貸出図書のカード目録をもとに、学術情報センターの総合目録データベースを検索し、ヒットしたもののみについて所蔵情報を登録しました。このカード目録による入力方式は平成8年8月から開始したもので、それまでの現物入力方式に比べて約4倍の入力件数を実現しました。平成7年度からこれまで部局別登録冊数は右表のとおりです。

附属図書館では、「今世紀中に全蔵書のOPAC化」を目標に今後も遡及入力事業を進めていきたいと考えていますので、関係者各位のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。（情報管理課 電子情報係）

部 局	登録冊数
法 学 部	18,829
工 学 部	18,689
教 育 学 部	36,982
理 学 部	2,766
教 養 部	22,601
文 学 部	20,303
保健管理センター	93
合 計	120,263

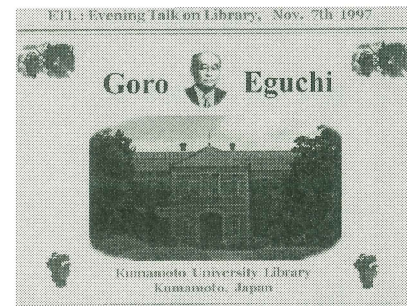
※H7.5～H9.11（総作業日数413日）

文化講演会『酒と図書館』を開催

熊本大学附属図書館の職員親睦会「びぶろす会」は、11月7日、江口学長を招いて「酒と図書館」と題する文化講演会を開催しました。これは、図書館について有識者に自由に語っていただくシリーズ企画「図書館を語る夕べ」の第1回目として行われたものです。

今回の講演で江口学長は、学生時代に出会った恩師や図書の思い出、発生生物学者の道を歩み始めるまでの経緯、図書館利用の経験等を語られた後、好きな酒の話では、「ウイスキーの歴史は蒸留技術の歴史、蒸留の歴史はガラス製造技術の歴史」という説から、大学の教育研究活動における図書館の存在意義を説かれました。

講演の後、出席者全員で、図書館特製ラベルを添えたワインをはじめとする各種酒類を交わしながら、組織を活性化する因子のひとつとしての酒の効用を相互に検証しました。



阿蘇家文書に見る肥後の南北朝

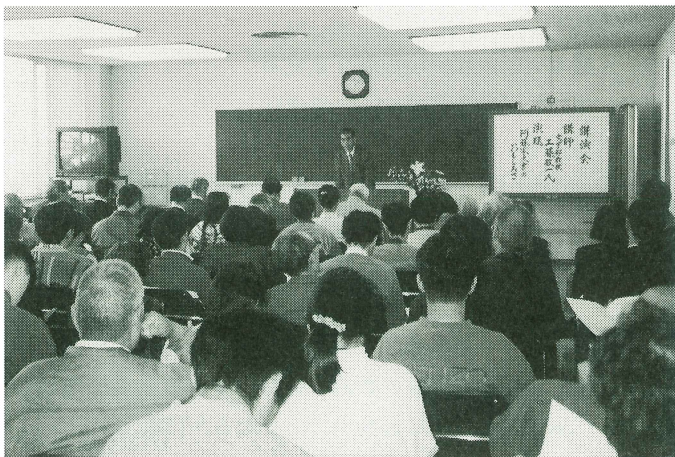
第14回附属図書館特殊資料展

附属図書館では、11月1日(土)から3日間、熊本大学の大学祭である熊粋祭(ゆうすいさい)の期間に合わせて、第14回特殊資料展を開催し、学内外から240名の参観者でにぎわいました。

今回の資料展は、昭和32年(1957)に熊本大学の所蔵となった『阿蘇家文書』が、昭和62年(1987)に国

の重要文化財に指定されて丁度10周年を期に、「阿蘇家文書に見る肥後の南北朝」をテーマに、「北条時政下文(1195)」「後醍醐天皇諭旨(1335)」「河尻幸俊願文(1349)」「高師直書状(1349)」「將軍足利尊氏御判御教書(1349)」「恵良惟澄軍忠状(1348)」など、肥後の中世に関する文書32点を展示しました。

また、初日の11月1日(土)には、図書館会議室において工藤敬一文学部教授による「阿蘇家文書のおもしろさ」と題する公開講演会を開催しました。大宮司阿蘇惟時に対して南北朝からの文書があること、背景、惟時宛の高師直書状に案文と正文とあって他にない事例で古文書学上もきわめて注目されること、南朝方として活躍した恵良惟澄(阿蘇惟時の女婿)が1345年から6年の間に15通もの軍忠状と恩賞請求状を出しつづけた事情など、80名の聴衆は、興味深く聴き入りました。



本学教官寄贈著書紹介

櫻井 哲男 教授 (文・文化表象学)

アジア音楽の世界
櫻井 哲男 著
世界思想社 1997. 10

中本 環 教授 (教・国文学)

町 塾 Mati zyuku
中本 環 編集・発行
No.1 (1993. 3)~No.9 (1997. 7)

福田 昇八 教授 (教・英米文学)

詩人の王 スペンサー
福田 昇八、川西 進 編
九州大学出版会 1997. 9

海老原 遙 教授 (教・教育史)

帝制ロシア教育政策史研究
海老原 遙 著
風間書房 1997. 12

人事異動

- 平成9.10.1 情報サービス課医学情報サービス係
中 川 智 之
(情報サービス課相互利用サービス係)
- 〃 情報サービス課電子サービス係に採用
牛 島 直 史

編集後記： 今年も恒例のごとく入試センター試験受験者の控え室となり、図書館は大盛況でした。職員も土日返上で、その対応に駆り出されましたが、試験科目の参考書を熱心に見入るエネルギーで閲覧室は熱気に溢れていました。

平日の利用状況がこのようであると、もっと図書館も大学も違ってくるのでしょうか。

今号は学長の寄稿を戴き、また、シリーズで掲載していた松本教授の「特殊文庫の紹介」も本号で終了しました。ありがとうございました。

日誌 (平成9. 9. 1~12. 26)

- 9. 10 附属図書館係長会議
- 9. 29 平成9年度漢籍担当職員講習会<漢籍電算処理>(於京都)
- 10. 6 平成9年度第1回総合目録データベース実務~10.24 研修会(学術情報センター)
- 10. 6 平成9年度学術情報センターセミナー~10.27(学術情報センター)
- 10. 7 古典籍研修会
- 10. 9 図書館委員会
- 10. 23 日本薬学図書館協議会研究集会(熊本大学)~25
- 10. 31 N A C S I S - I R 地域講習会(中央館)
- 11. 1 第14回熊本大学附属図書館特殊資料展~3
- 11. 7 平成9年度文化講演会「江口吾郎学長を迎えて」(中央館)
- 11. 10 平成9年度史料管理学研修会(於沖縄)~21
- 11. 11 附属図書館係長会議
- 11. 11 平成9年度大学図書館職員講習会(於大阪)
- 11. 18 附属図書館委員会
〃 古典籍研修会
- 11. 25 第10回国立大学図書館協議会シンポジウム(於神戸)
- 11. 27 図書館協議会
- 12. 1 情報ネットワーク担当職員研修会(於東京)~5
- 12. 2 古典籍研修会
- 12. 16 古典籍研修会

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)*

第19号 (Vol.7 No.1) 平成10年2月発行

発行所 熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市黒髪 2-40-1

TEL 096(342)2273 FAX 096(345)9087

HP <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>

編集 山根文夫・飯田典子・成田和則

中尾康朗・伊波ひとみ・野元剛二

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。